

(別紙2-1) 平成 28 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290700089		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	平戸荘第二グループホーム		
所在地	〒859-5361 長崎県平戸市紐差町4949番地		
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果市町村受理日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JijyosyoCd=4290700089-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ	
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号	
訪問調査日	平成28年12月2日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周囲は平坦で広々しており、周囲を安全に散歩することや、戸外に出かけやすい環境にあります。近くには小学校、中学校、公民館、図書館、商店、病院、警察署等があり、地域の活動にも参加しやすく、警察の巡回にも組み込まれており、安心も得られています。

開設から二年余りで、建物も設備も新しく清潔です。防災の備えも施設独自に準備ができており、毎月の訓練も実施できています。平屋造りで、各居室からウッドデッキに出ることも可能で、災害時の避難も容易であり、日が差し込んで日光浴を楽しむこともできます。

近くに同じ法人の特別養護老人ホームの平戸荘があり、緊急時の対応、行事や活動での協力が得られる体制が整っています。

職員は明るく、元気でチームワークもとれており、事業所内外の研修にも積極的に参加して意欲的です。利用者の皆様と、季節の移ろいを五感で感じとり、四季折々の活動を楽しみながら、我が家のように過ごしていただける事を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平戸荘第二グループホームは開設して3年目のグループホームです。

大きな建物の内部は、木の美しい梁と高い位置にある大きな窓からの採光で自然のぬくもりを感じさせる落ち着いた空間になっています。

近くには長年地域に根差して福祉事業を運営している同法人の介護事業所があるので、ホーム職員も介護経験が長い職員などバランスよく配置されています。その他、運営面のサポートや介護研修制度の充実などあらゆる面においてバックアップ体制が整っています。

ホームでは、それまで法人が築いてきた地域との関わりを大切に、地域の一員として小学校の運動会やマラソン大会の応援、文化祭への参加、地域ボランティア活動など、地域活動に積極的に参加されています。地域との付き合いは、ホームの活性化にも繋がっており、利用者も以前からの馴染みの友人と再会したり、若い世代との交流を行ったりして楽しんでいます。

管理者及び職員は、行事の企画やアイデアを出しあったり、個人の外出支援等の計画を立てたりと、利用者の笑顔があふれる暮らしを目指し、一致団結して取り組まれています。

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングで職員全員が白寿会理念と、第二グループホームの宣誓を復唱して、一日の始まりに再確認している。こころユニットは、日常達成できる言葉で独自に目標を三点掲げて、場面場面で実行できるように声掛けをしあっている。	わかりやすい言葉でつくられた理念は、職員に浸透しています。職員は地域とのつながりや、利用者に寄り添うケアの提供を意識しながら支援されています。業務優先になりがちな時には、理念を振り返り、何を優先すべきか考えられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	紐差町第三区の一員として、清掃活動やスポーツ会の応援にも参加してなじみの関係の構築に努めている。炊き出しに参加した際は、大変歓迎され「来年もまたね」と声をかけていただいた。昔ながらの地域の行事「ジャンガウ奉納」「お巡りさん」「彼岸法要」は施設にも来ていただき皆様喜ばれている。	地域とのつながりをとても大切にされており、地区の行事のボランティアを行ったり、自治会の年度末の話し合いにも出席したり、地域活動に積極的に参加されています。 近隣の小学校の運動会やお祭りを見学に行くなど様々な交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会や施設の見学、入居申し込みに来られた際に、介護保険の仕組みやサービス、認知症の支援の方法について助言を行っている。また、管理者は事業所内の介護予防委員会に籍を置き、地域の「いきいきサロン」「介護教室」にも参加して情報提供行ったり、相談を聞いたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二か月に一回開催できている。新規入居された方には、運営推進会議がどのようなものか文書にて紹介し、会議の後には資料と議事録を全家族に郵送している。参加者から出された意見は、職員に降ろして随時検討しているが、ご家族の会議への関心は高いとは言えない状況。	運営推進会議は、行政担当者・家族代表・地域の推進委員の人々に加え、ホームの利用者にも参加して頂き開催されています。会議の中では、色々な立場の参加者から質問や意見があげられており、ホームの運営に反映されています。	
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席された時に、施設側の状況を知らせたり、市の政策や連絡を聞いたり情報交換できている。また施設外の研修などにも積極的に参加して、市役所担当者の話を聞く機会もあり、質問もしやすい関係が出来ている。	日頃の業務・運営面で法的な改正やわからない事があった場合には、すぐに担当機関に相談をされています。イベントや研修の参加要請があれば協力をされ、より良い関係づくりに努められています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体でも、第二グループホーム内でも勉強会を行い、身体拘束しないケアの取り組みを行っている。離脱。転倒の危険性が高い方の網戸を固定してモニタリング行っていたが、自力で立てなくなった時点で、すぐにオープンにしている。	身体拘束はしないという方針に基づきケアをされています。勉強会も定期的に行われ、どのようなものが身体拘束にあたるのか等を学ばれています。また、言葉の抑制なども学ばれており、どのような対応・言い方が好ましいのかなど職員で検討されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設独自、事業所でも勉強会の計画があるが、今年度は法人全体研修会で講師を招き、「介護のプロの心構え」の中でも、気づかずに行ってしまう虐待行為についての学びを深めることができた。個々の職員は理解はできているが、日常のケアの中で不適切な対応と思われる行いもある。お互いが注意し合える環境がまだ不十分。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者がいないこともあり、職員に十分な研修の場の提供ができていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を読み上げながら、わかりやすく説明するよう心掛けている。料金や、入院時の対応、退院後の行き場など不安に思われている点などは、今までの事例を挙げて説明し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の説明の時に苦情窓口について説明行っている。施設内に苦情箱を設けているが、まだ意見が入ったことが無い。ご家族やご本人と話しながら、満足度や不満、不快に思ったことについて感じたことがあれば、苦情としてとらえ施設内、さらに事業所内での委員会でも報告し対策を検討実施している。気づきの力向上が課題。	家族が面会に来られた際には、職員から声を掛け、意見や要望などを伺うように心掛けられています。利用者・家族から苦情や問題提起があった場合は、速やかな解決に努め、家族にも対応・改善策などの報告が行われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会を毎月行い、意見要望は事業所での拡大会議に持ちあがれるシステムになっている。また随時意見を聞いて検討する体制もとれている。人事考課の取り組みの中で、管理者と職員の個人面接も年に2回、それ以外でも希望に応じて行ってケアの向上につなげている。	運営に関する意見や提案はユニット会議でもよく出ています。また、個人面談という形で幹部職員や管理者が、職員の話聞く機会を設けられています。職員も職場環境や家庭内の状況について、気兼ねなく話をすることができ、問題の解消に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の取り組みでキャリアパスの提出があり、努力して貢献できたこと、反省点、今後の目標等文字にして明記してもらい、その後個人面談を行い評価を行っている。有給休暇もとれやすい雰囲気があり、それぞれが必要な時期に交代で利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修には十分な人数を参加させることができないが、法人全体研修はほとんどの職員が参加している。毎月介護関係、救急の勉強会を行い、重要なテーマについては複数回開催して多くの職員が参加できるようにしている。実務者研修受講者は勤務の調整をして、勉強会に参加できるよう協力体制がとれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	恒例の親善風船ハレ-大会やソフトハレ-大会に参加して職員間の交流を図っている。法人間の施設でも、看護師、相談員等職種別に集まって情報の交換行い、自施設に活かせることことは取り入れている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当のケアマネ-ジャーや病院関係者から話を聞き、その方の生活歴や、病気、思いについて情報を詳しく集めるようにしている。ご本人にも話しかけを多くして、不安に思っていることや、要望はないか尋ねながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の段階で困っていることや、不安なことが無いか尋ね、その後も相談しやすい雰囲気作りをこころがけている。相談があった時は、ご家族の都合の良い時間に合わせて調整し、気にかけていることの経過は電話で報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネ-ジャー、または病院関係者と連携を取って、現状把握を行ったうえで、本人、家族の意向や希望、できることを知り、サービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの得意とすること、できること(洗濯物たたみ、料理の下ごしらえ等)を日常生活の中で行ってもらっているが、拒否されたり、転倒やけがのリスクが高くなる恐れがあり、職員が行うことが多くなりがちである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様がご家族の面会や、働きかけがあると喜ばれ、元気になられることを伝え、家族の存在が力になっていることを知らせる。 サービス変更する際は家族の意向も確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外出希望時は随時対応している。彼岸の時は墓参りに付き添い喜ばれた。段差があつてお墓に行けない方は、車で行けるところまでお連れするとその場で手を合わされていた。なじみの美容室がある方は、定期的にお連れしている。	職員は利用者の友人や近所の人などの来訪の際は笑顔で迎え、いつでもホームに遊びに寄って頂けるような雰囲気づくりに努められています。利用者の昔からの信仰心も大切にされており、月に一度の教会の神父の訪問も受け入れられています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を把握し、相性の合わない方は距離を置いたり、話好きの方はお互い話ができるように機会を設けたりしている。隣の利用者様にお茶をついであげたり、エプロンを整えて食事を勧めたり、職員の話を書いたりする事を役割としてお世話をされ、隣の方も心を許してお互い笑顔が見られる交流が出来る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退去された後も、時々病室に訪問して声掛けしたり、ご家族に近況を尋ねたりしている。 施設変更や他の理由で退居される方にも、退去時、何か相談あるときは遠慮なく電話をしてほしい旨伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者のこれまでの生活歴、現在の思いに配慮し、意向を話しやすい雰囲気づくりに努めているが、遠慮されている方もいて、職員の聞き取りの力がまだまだ足りない部分がある。 意思確認が困難な方は、ご家族から情報を得たり、ご本人の反応を見てサービスの検討を行ったりしている。	毎日の生活で接する中で、利用者の気持ちを理解するよう努められており、ホームとしては今以上に、要望に応えられるようにしたいと考えられています。課題をクリアしながら、利用者の気持ちを大切にしたサービスを目指されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の担当マネージャーや利用していたサービス機関、入院の場合は病院関係者から情報を集めたり、ご家族に話を聞いてアセスメントシートを作成している。担当ユニットだけでなく全職員目を通し、日常いつでも確認できるようにファイルに綴っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングでの申し送り、ユニット申し送り、連絡ボード、生活日誌に目を通し、個人の変化を各人が伝える努力と、知る努力をするように心がけている。 職員は担当利用者様の、望む一日の生活が援助できるように日課表を作成しているが、十分に意向を把握しきれていない			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は各担当利用者様の状態や意向の確認を行い、担当者会議やユニット会でサービス提供について意見交換を行っている。定期(半年に一回)、状況に変化があった時に見直しを行っているが、ご家族に会えなかった時の意向の確認が十分に行えていない時がある。	ケアプランは基本的に半年毎の更新となっています。前回の介護計画書とモニタリング結果をもとにサービス担当者会議を開き、気付いたことや新しいニーズについて意見を出し合われています。会議に来られない家族からは、面会の際に意向や希望を伺うようにされています。	ケアプランで行うサービスの中で、そのプランの根拠の理解が足りないままに、サービスを提供されている場面もあるようです。また、連絡・報告のミスもあるようですので、職員間の連絡体制の見直しなどを推奨します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコン内のケアノートに個人の記録を、日中と夜間に分けて毎日入力している。随時口頭での報告、連絡ノートの記入も行い情報共有に努めている。担当者が毎月一回モニタリングを行い計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時間外での病院受診や家族が遠くにいる方の役所への手続き、入院時の洗濯等、代理のできる範囲は行っている。歌手のコンサートに行きたい希望あり、問い合わせて車いすでの入場、職員の近くでの見守り可と言われチケット購入する。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	彼岸の法要、教会の神父様訪問、小中高生の訪問、民生委員さんの見学訪問で交流が持てたり、地域の美容師さんに散髪依頼し定期的に訪問してもらうことで外出散髪できない方が喜ばれている。 また、地域の行事、学校の行事に参加することで「楽しかった」との感想も聞かれている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院は近くで定期受診、緊急時、夜間の受診も対応可能。定期受診の際は前回受診からの状態を報告して、内服薬の見直しなども行ってもらっている。気になることは相談できる関係性が築かれている。毎回受診の記録を記入し、ご家族にも変化のある時は立ち会ってもらったり、電話での報告を行っている。	馴染みのかかりつけ医の継続受診も可能です。ホーム近くには、夜間対応の病院もあり、日頃から連携体制が整えられています。診察後には受診結果を記録し、職員間で情報を共有されています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ事業所内の特養の看護師が常勤しており、体調不良時や傷を形成した時は応急の処置を行ってもらう。 ご利用者のアセスメントを渡し、変化のあった時はその都度報告をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護情報提供書を渡し、随時電話にて情報を聞いたり、面会時に師長から主治医の診察経過の情報を得る。必要なときはリハビリ担当から退院後の援助の方法の指導を受けたり、相談しやすい関係性は築かれている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りケアができるシステムは整っておらず、自施設でする内容の説明を行っている。皆様高齢であるので、終末に向けてのご家族の意向は入居時確認を行い、終末ケアを行えるサービスについでいく相談にも応じている。職員は看取りケアについての勉強会を行い、ご家族、ご本人の精神的ケアについても学んでいる。	ホームでのケアが困難になっても、でき得る限り家族の意向に応じるよう努められています。職員は、勉強会を通じてターミナルケアの理解を深められています。 また、同法人の別施設への移行などもスムーズに行われています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所研修や自施設内研修で救急対応、初歩的な医療処置について、防災時の避難誘導についてなどを学んでいる。吸痰の講習受講者はまだ半分に満たない。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月9日を「防災訓練の日」として机上学習を含め、ご利用者参加の避難誘導、夜間を想定して職員2名で対応行う訓練、消防署への通報訓練を行っている。まだ全員が夜間想定夜の夜勤者の対応を体験できていない。施設内は防災カーテン使用し、調理器具の正しい使用方の周知、コンセント部の掃除を行い予防に努めている。	非常時用の持ち出しリュックを用意されて、ホームから外へ避難する場合は、利用者情報ファイルや利用者が服用している3日分の薬が、すぐに持ち出せるように準備をされています。非常事態に備えて3日分のご飯・副食・スープ・水などを備蓄されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼にならない言葉、悲しませない声かけを「プロとしての心構え」や「虐待」「職業倫理」の勉強会で確認し合っているが、十分に実施できていると言えない部分もある。 個室への入室の際は、必ず声掛けしてご本人の許可を得ている。	職員は接遇マナー研修を受け、勉強されています。また、毎日サービスを行う中で馴れ合いの関係にならないよう指導もされています。 利用者の能力に応じてホームでの役割をお願いし、一人ひとりが生きがいを持って生活できるように努められています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が言いやすい関係性の構築や雰囲気づくり、問いかけがわかりやすいような言葉を選び、表情やことばの強さなども配慮するようにしているが、遠慮されていることも多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の望みに応じた一日の生活を支援するために、個々人の日課表を作成しているが、まだ希望を十分にくみ取れているとは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診や外出の際は好きな服を選んでいただくようにしているが、困難な方は職員が付き添って季節に合っているか確認している。行きつけの美容院でカラーリングやパーマをかける方の送迎援助を行っている。外部の美容師さんがカットに来られた際は、ご本人の希望を聞いて鏡を見ながらカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食材、献立には代替え食を提供している。誕生日の時は食べたいものを聞いて対応、握りずしを希望された方は大変喜ばれた。ごぼうそぎや皮むき等手伝ってもらいが、限られた人になってしまう。一か月に一回「イベントおやつ」の企画を設けて、団子づくりやトッピング等行ってもらい、自分たちで作って食べる体験をしてもらい好評を得ている。	畑では季節に応じて大根・ほうれん草・キャベツなど様々な種類の野菜がつかられています。収穫した新鮮な野菜は、メニューに使われ食卓に上っています。管理栄養士が栄養バランスを考えたメニューが毎日提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立をもとに、個人に合わせて刻み、ミキサー、とろみを使用して食べていただく工夫をしている。水分は食事や入浴後10時、3時の他にも随時勧めている。食事の膳にも小鉢に入れてお茶ゼリを提供し、おやつ感覚で水分を摂取していただけるようにしている。お茶をたくさん飲めない方には、好きなヤクルト、ポカリスエット購入して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お茶でうがいし、義歯は外して洗浄している。自力でできる方は見守り、仕上げ行い、舌も軽く磨きながら口腔内の観察を行っている。夜間はホリデント洗浄し清潔に保つよう努めている。各自の口腔ケアの道具も定期的に消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を記録しながら、排便のパターンの把握に努めている。排泄の意向を言える方、座位が安定している方たちは介助にてトイレでの排泄を援助している。	トイレはユニットごとに3箇所設けられています。他者を気にせず、ゆっくり快適に排泄できるように支援されています。 チェック表を見ながらトイレ誘導が行われており、利用者の自尊心にも配慮しながら適切な言葉かけを心掛けられています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	無理強いにしない範囲で、運動へお誘いしている。便秘対策として、毎朝10時に手作りのカスピ海ヨーグルトを提供したり、起床時に水分を勧めたり、随時細やかに水分摂取を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2ユニットに浴室が一所であるため、入浴日を曜日ごとに設定しているが、体調やご本人の気分、行事参加で変更することは可能。入浴前には気分についても確認している。入浴時間に関しては業務の都合になりがちであるが、湯船でくつろぐ時間は、体に負担がかからない範囲で個人の希望に沿った対応を行っている。	基本的な入浴の実施回数は決まっていますが、利用者の体調や気分を考慮しながら、臨機応変に対応されています。浴槽は、両側から介助が出来るように配置されており、浴室用車いすやエアコンの設置など安全な入浴を支援できるように整備されています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や活動を考慮しながら、希望時は居室でゆっくりと休んでいただいている。寝具は業者にて定期的に洗濯されて清潔が保たれている。使い慣れた枕や毛布が良いと自宅から持参されている方もいる。各部屋空調の設備も整っており、室温湿度を確認しながら季節に合わせて快適に設定されている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれご利用者の薬情報を受診のたびにファイルに綴じ、受診結果記入して口頭でも報告を行い情報を共有している。服薬後の状態も観察し、経過を次回の受診時報告している。服薬介助は、複数人数で複数回確認する手順にして、服薬忘れ、誤薬の予防に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の作業を手伝っていただくことで、役割を果たす、役に立ったという達成感を感じていただけるよう努めている。花や野菜に興味のある方は、個人用のプランターを用意して、居室前のデッキに置き毎日水かけをして成長を楽しまれていた。四季の風景を見に近場に頻りにドライブに行き気分転換を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	施設周囲の散歩、ドライブ、地域の行事、イベントにご本人の意向を確認しながら参加している。 難病で動きが困難になってきている方の、自宅への外出が孫様たちの協力を得て実施され、別の方は好きな歌手のコンサートに行く計画を立てている。車いすでの入場の了解得ている。	天気が良い時は、散歩やドライブなどの日常的な外出機会を持たれています。ホーム全体で花見や海遊びに出掛けたり、平戸縦断駅伝の応援をしに行ったりと様々な外出支援も行われています。利用者希望による個別外出も、計画を立てて実施されています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小遣いを預かっており、外出の際はそこから個人別にお金を準備して、好きな買い物を楽しんでもらっている。個人で財布を管理されている方も数人おられ、美容院の支払いなど個人で行っている。店側やご家族とは常に連携をとっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望がある時は対応行っている。また外から電話がかかってきた時は、できるだけご本人と変わって話ができるように援助している。携帯電話を持っている方は、居室でゆっくりと話をされている。操作面での相談に応じている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、季節を感じられるような飾りを工夫して、視覚的にも楽しめるように努めている。温湿度計を確認したり、ご利用者の声を聞きながら、空調の調整も行っている。両ユニットが集まってレクレーションを行う場所の照明が暗いとの声も聞かれる。	ホールのようなリビングは、中央部分以外は吹き抜けの天井になっており、自然光もふんだんに入ってくる開放的な空間になっています。広いリビングを囲むような形で居室が配置されているので、利用者の行動に対して目配りも利きやすくなっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファがあり、気の合った利用者様同士が近くに座ってコミュニケーションをとる姿が見られる。畳に上がって洗濯物をたたんだり、足を投げ出して座る光景も見られる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みは自由だが、自宅から使い慣れた家具を持ち込まれる方は少ない。 仏壇やお位牌を持ってこられている方には、毎朝お茶をあげたり、お彼岸にはお供えをしたりの援助を行っている。	居室への危険物以外の持ち込みは自由とされています。使い慣れた家具や電化製品など愛用品を持ち込み、自分の暮らしやすい環境を整えることができます。 加湿器を設置するなど、空調管理への配慮も見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、広いフロアは要所要所に取り外し可能な手すりが設置されている。3か所のトイレにはわかりやすい表示がされており「トイレ」の認識がしやすい。内部も車いすが入るスペースがあり、それぞれに手すりや、座ってからの肘置きなど設置されている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で目標の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングで職員全員が白寿会理念と、第二グループホームの宣誓を復唱して、一日の始まりに再確認している。ご利用者と日常関わる中で、今行っている行為が利用者本位になっているか、職員同士で話すこともある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	紐差町第三区の一員として、清掃活動やスポーツ会の応援にも参加してなじみの関係の構築に努めている。炊き出しに参加した際は、大変歓迎され「来年もまたね」と声をかけていただいた。昔ながらの地域の行事「ジャンガラ奉納」「お巡りさん」「彼岸法要」は施設にも来ていただき皆様喜ばれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会や施設の見学、入居申し込みに来られた際に、介護保険の仕組みやサービス、認知症の支援の方法について助言を行っている。また、管理者は事業所内の介護予防委員会に籍を置き、地域の「いきいきサロン」「介護教室」にも参加して情報提供行ったり、相談を聞いたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二か月に一回開催できている。新規入居された方には、運営推進会議がどのようなものか文書にて紹介し、会議の後には資料と議事録を全家族に郵送している。参加者から出された意見は、職員に降ろして随時検討行っているが、ご家族の会議への関心は高いとは言えない状況。		
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席された時に、施設側の状況を知らせたり、市の政策や連絡を聞いたり情報交換できている。また施設外の研修などにも積極的に参加して、市役所担当者の話を聞く機会もあり、質問もしやすい関係が出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体でも、第二グループホーム内でも勉強会を行い、身体拘束しないケアの取り組みを行っている。 ベッドから降りようとする方には、降りても怪我が無いように低床にして衝撃吸収マットを敷いて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設独自、事業所でも勉強会の計画があるが、今年度は法人全体研修会で講師を招き、「介護のプロの心構え」の中でも、気づかずに行ってしまう虐待行為についての学びを深めることができた。個々の職員は理解はできているが、日常のケアの中で不適切な対応と思われる行いもある。お互いが注意し合える環境がまだ不十分。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者がいないこともあり、職員に十分な研修の場の提供ができていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を読み上げながら、わかりやすく説明するよう心掛けている。料金や、入院時の対応、退院後の行き場など不安に思われている点などは、今までの事例を挙げて説明し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の説明の時に苦情窓口について説明行っている。施設内に苦情箱を設けているが、まだ意見が入ったことが無い。ご家族やご本人と話しながら、満足度や不満、不快に思ったことについて感じたことがあれば、苦情としてとらえ施設内、さらに事業所内での委員会で報告し対策を検討実施している。気づきの力向上が課題。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会を毎月行い、意見要望は事業所での拡大会議に持ちあがれるシステムになっている。また随時意見を聞いて検討する体制もとれている。人事考課の取り組みの中で、管理者と職員の個人面接も年に2回、それ以外でも希望に応じて行ってケアの向上につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の取り組みでキャリアパスシートの提出があり、努力して貢献できたこと、反省点、今後の目標等文字にして明記してもらい、その後個人面談を行い評価を行っている。有給休暇もとりやすい雰囲気があり、それぞれが必要な時期に交代で利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修には十分な人数を参加させることができないが、法人全体研修はほとんどの職員が参加している。毎月介護関係、救急の勉強会を行い、重要なテーマについては複数回開催して多くの職員が参加できるようにしている。実務者研修受講者は勤務の調整をして、勉強会に参加できるよう協力体制がとれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	恒例の親善風船パレ-大会やソフトパレ-大会に参加して職員間の交流を図っている。法人間の施設でも、看護師、相談員等職種別に集まって情報の交換行い、自施設に活かせることことは取り入れている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当のケアマネ-ジャーや病院関係者から話を聞き、その方の生活歴や、病気、思いについて情報を詳しく集めるようにしている。ご本人にも話しかけを多くして、不安に思っていることや、要望はないか尋ねながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の段階で困っていることや、不安なことが無いかな尋ね、その後も相談しやすい雰囲気作りをこころがけている。相談があった時は、ご家族の都合の良い時間に合わせて調整し、気にかけていることの経過は電話で報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネ-ジャー、または病院関係者と連携を取って、現状把握を行ったうえで、本人、家族の意向や希望、できることを知り、サービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの得意とすること、できること(洗濯物たたみ、料理の下ごしらえ等)を日常生活の中で行ってもらっているが、拒否されたり、転倒やけがのリスクが高くなる恐れがあり、職員が行うことが多くなりがちである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様がご家族の面会や、働きかけがあると喜ばれ、元気になられることを伝え、家族の存在が力になっていることを知らせる。 サービス変更する際は家族の意向も確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外出希望時は随時対応している。なじみの美容室に行きたいと希望された方は、距離的に遠くなるが定期的に通ってパーマやカットされ喜ばれている。また地元の敬老会に参加したり、入院している兄弟のお見舞いに行ったりされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を把握し、相性の合わない方は距離を置いたり、話好きの方はお互い話ができるように機会を設けたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退去された後も、時々病室に訪問して声掛けしたり、ご家族に近況を尋ねたりしている。 施設変更や他の理由で退居される方にも、退去時、何か相談あるときは遠慮なく電話をしてほしい旨伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者のこれまでの生活歴、現在の思いに配慮し、意向を話しやすい雰囲気作りに努めているが、遠慮されている方もいて、職員の聞き取りの力がまだまだ足りない部分がある。 意思確認が困難な方は、ご家族から情報を得たり、ご本人の反応を見てサービスの検討を行ったりしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の担当マネージャーや利用していたサービス機関、入院の場合は病院関係者から情報を集めたり、ご家族に話を聞いてアセスメントシートを作成している。担当ユニットだけでなく全職員目を通し、日常いつでも確認できるようにファイルに綴っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングでの申し送り、ユニット申し送り、連絡ボード、生活日誌に目を通し、個人の変化を各人が伝える努力と、知る努力をするように心がけている。 職員は担当利用者様の、望む一日の生活が援助できるように日課表を作成しているが、十分に意向を把握しきれていない		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は各担当利用者様の状態や意向の確認を行い、担当者会議やユニット会でサービス提供について意見交換を行っている。定期(半年に一回)、状況に変化があった時に見直しを行っているが、ご家族に会えなかった時の意向の確認が十分にできていない時がある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコン内のケアノートに個人の記録を、日中と夜間に分けて毎日入力している。随時口頭での報告、連絡ノートの記入も行い情報共有に努めている。 担当者が毎月一回モニタリングを行い計画の見直しに活かしている。結核の内服薬服用されている方に関しては、個別の記録を毎日行い、体調の変化も細かく申し送っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時間外での病院受診や歩行困難な方の市外の病院への送迎の援助、入院時の洗濯等を行っている。歌手のコンサートに行きたい希望あり、問い合わせて車いすでの入場、職員の近くでの見守り可と言われチケット購入する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	彼岸の法要、教会の神父様訪問、小中高生の訪問、民生委員さんの見学訪問で交流が持てたり、地域の美容師さんに散髪依頼し定期的に訪問してもらうことで外出散髪できない方が喜ばれている。 また、地域の行事、学校の行事に参加することで「楽しかった」との感想も聞かれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院は近くで定期受診、緊急時、夜間の受診も対応可能。定期受診の際は前回受診からの状態を報告して、内服薬の見直しなども行ってもらっている。気になることは相談できる関係性が築かれている。毎回受診の記録を記入し、ご家族にも変化のある時は立ち会ってもらったり、電話での報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ事業所内の特養の看護師が常勤しており、体調不良時や傷を形成した時は応急の処置を行ってもらう。 ご利用者のアセスメントを渡し、変化のあった時はその都度報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護情報提供書を渡し、随時電話にて情報を聞いたり、面会時に師長から主治医の診察経過の情報を得る。必要なときはリハビリ担当から退院後の援助の方法の指導を受けたり、相談しやすい関係性は築かれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りケアができるシステムは整っておらず、自施設でする内容の説明を行っている。皆様高齢であるので、終末に向けてのご家族の意向は入居時確認を行い、終末ケアを行えるサービスにつないでいく相談にも応じている。職員は看取りケアについての勉強会を行い、ご家族、ご本人の精神的ケアについても学んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所研修や自施設内研修で救急対応、初歩的な医療処置について、防災時の避難誘導についてなどを学んでいる。吸痰の講習受講者はまだ半分に満たない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月9日を「防災訓練の日」として机上学習を含め、ご利用者参加の避難誘導、夜間を想定して職員2名で対応行う訓練、消防署への通報訓練を行っている。まだ全員が夜間想定での夜勤者の対応を体験できていない。施設内は防災カーテン使用し、調理器具の正しい使い方の周知、コンセント部の掃除を行い予防に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼にならない言葉、悲しませない声かけを「プロとしての心構え」や「虐待」「職業倫理」の勉強会で確認し合っているが、十分に実施できていると言えない部分もある。 個室への入室の際は、必ず声掛けしてご本人の許可を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が言いやすい関係性の構築や雰囲気づくり、問いかけがわかりやすい言葉を選び、表情やことばの強さなども配慮するようにしているが、遠慮されていることも多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の望みに応じた一日の生活を支援するために、個々人の日課表を作成しているが、まだ希望を十分にくみ取れているとは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診や外出される際に、帽子やスカーフ、サングラスなどの小物のおしゃれをされる方には、ゆっくりと時間がとれるように、早めに出かけることを伝えている。化粧品の購入やなじみの美容院への送迎援助も行う。行事の時にはお化粧を勧め喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食材、献立には代替え食を提供している。誕生日の時は食べたいものを聞いて対応、握りずしを希望された方は大変喜ばれた。ごぼうそぎや皮むき等手伝ってもらいが、限られた人になってしまう。一か月に一回「イベントおやつ」の企画を設けて、団子づくりやトッピング等行ってもらい、自分たちで作って食べる体験をしてもらい好評を得ている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立をもとに、個人に合わせて刻み、ミキサー、とろみを使用して食べていただく工夫をしている。食事の膳にも小鉢に入れてお茶ゼリーを提供し、おやつ感覚で水分を摂取していただけるようにしている。ウロン茶が好きな方には個別に提供し、体調の変化に応じて量や食事の形態も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お茶でうがいし、義歯は外して洗浄している。自力でできる方は見守り、仕上げ行い、舌も軽く磨きながら口腔内の観察を行っている。夜間はホリデンで洗浄し清潔に保つよう努めている。各自の口腔ケアの道具も定期的に消毒行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を記録しながら、排便のパターンの把握に努めている。排泄の意向を言える方、座位が安定している方たちは介助にてトイレでの排泄を援助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	無理強いにしない範囲で、運動へお誘いしている。便秘対策として、毎朝10時に手作りのカスピ海ヨーグルトを提供したり、起床時に水分を勧めたり、随時細やかに水分摂取を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2ユニットに浴室が1か所であるため、入浴日を曜日ごとに設定しているが、体調やご本人の気分、行事参加で変更することは可能。入浴前には気分についても確認している。入浴時間に関しては業務の都合になりがちであるが、湯船でくつろぐ時間は、体に負担がかからない範囲で個人の希望に沿った対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や活動を考慮しながら、希望時は居室でゆっくりと休んでいただいている。寝具は業者にて定期的に洗濯されて清潔が保たれている。使い慣れた枕や毛布が良いと自宅から持参されている方もいる。各部屋空調の設備も整っており、室温湿度を確認しながら季節に合わせて快適に設定されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれご利用者の薬情報を受診のたびにファイルに綴じ、受診結果記入して口頭でも報告行い情報を共有している。服薬後の状態も観察し、経過を次回の受診時報告している。服薬介助は、複数人数で複数回確認する手順にして、服薬忘れ、誤薬の予防に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の作業を手伝っていただくことで、役割を果たす、役に立ったという達成感を感じていただけるよう努めている。入居前の習慣の日記付けや、編み物ができるように道具をそろえる支援を行っている。四季の風景を見に近場に頻りにドライブに行き気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	施設周囲の散歩、ドライブ、地域の行事、イベントにご本人の意向を確認しながら参加している。好きな歌手のコンサートに行きたい希望あって計画を立てている。車いすでの入場の了解得ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小遣い金を預かっており、外出の際はその中から個人別にお金を準備して、好きな買い物を楽しんでもらっている。個人で財布を管理されている方も数人おられ、使い方については相談にのったり、ご家族に報告したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望がある時は対応行っている。また外から電話がかかってきた時は、できるだけご本人と変わって話ができるように援助している。誕生日に贈り物が来た方がお礼の手紙を書くのを手伝った。名前を自筆で書いていただき、伝えたいことは職員が代筆してご本人も、相手の方も大変喜ばれた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、季節を感じられるような飾りを工夫して、視覚的にも楽しめるように努めている。温湿度計を確認したり、ご利用者の声を聞きながら、空調の調整も行っている。両ユニットが集まってレクレーションを行う場所の照明が暗いとの声も聞かれる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファがあり、気の合った利用者様同士が近くに座ってコミュニケーションをとる姿が見られる。畳に上がって洗濯物をたたんだり、足を投げ出して座る光景も見られる。居室で過ごされることが多いときは、引きこもりにならないように声かけて話し相手になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みは自由だが、自宅から使い慣れた家具を持ち込まれる方は少ない。自分用の枕やクッション、ぬいぐるみ、電気毛布などゆっくり休めるものをベッド上に揃えられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、広いフロアは要所要所に取り外し可能な手すりが設置されている。3か所のトイレにはわかりやすい表示がされており「トイレ」の認識がしやすい。内部も車いすが入るスペースがあり、それぞれに手すりや、座ってからの肘置きなど設置されている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			